



テクニカル・メッセージ

エンジンオイル量の日常点検について

近年の車両は排気ガス浄化デバイスの装着・燃費向上による高性能化に伴い、従来以上にエンジンオイルのメンテナンスが重要になっており、メンテナンスが不適切な場合、路上故障やエンジン不調に繋がるケースが発生しています。

DPR付車は再生時にエンジン燃焼室内に燃料噴射を行うため、エンジンオイル内に燃料が混ざり、オイルが徐々に増えていくことで、意図しないエンジン回転上昇に至る場合があります。

一方、エンジンオイルが少ないと、潤滑不良となり、エンジンの焼き付きに至る場合があります。

このため、オイル量の適切な日常（運行前）点検を行って頂きますよう、お願い致します。

1. 対象車両

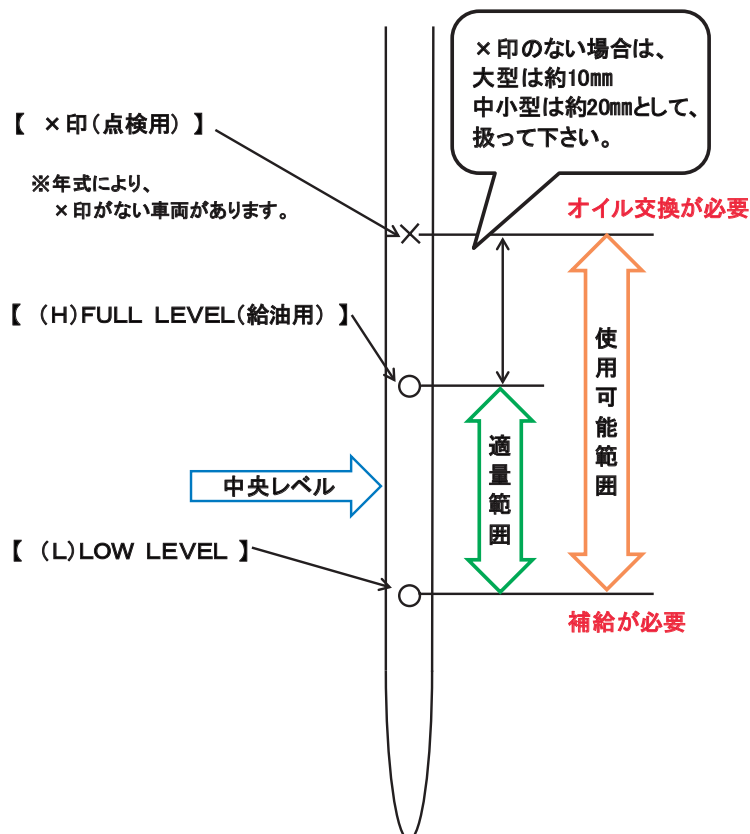
新短期排ガス規制以降 日野大中小型バス・トラック全車

2. 日常（運行前）点検について

日常点検として、下図に示す要領に従い、オイルレベルゲージの確認を行って下さい。

運行前にLOW LEVELからFULL LEVEL(○穴：給油用)内に、オイル量があることを確認して下さい。

尚、オイル量が×印(点検用)を越えている場合は、エンジンオイルを必ず交換して下さい。



3. オイル交換時の注意について

オイル交換は、以下の手順で行って下さい。

尚、オイル給油後、30分経過した時点で、オイル量の点検を行いますが、**時間の都合等で点検できない場合には、オイルゲージLOW-FULLの中央レベルまでの給油として下さい。**
その後できるだけ早いうちに、正しい点検でご確認下さい。

【交換手順(取扱説明書から抜粋)】

- ①車両を平坦な場所に停車し、エンジンを停止します。
- ②フィラキャップとオイルパンのドレンプラグ及びオイルフィルタのドレンプラグを取外して排油します。
- ③完全に排油した後、ドレンプラグを確実に締め付けます。
- ④オイルフィラから給油します。
- ⑤給油後、10分程経過してから、オイルレベルゲージでオイル量を点検します。
- ⑥エンジンを掛けて、アイドリング回転にします。
- ⑦エンジンを止め、30分以上経過してから、オイル量を点検します。

※注意 FULL LEVEL(給油用)を絶対に越えない様にして下さい。

4. その他

車両を長期にお使い頂くためには、オイル交換時期も重要です。エンジンを高回転・高負荷で多く使用している場合は、走行キロ数に関わらず早めに交換して下さい。定期的にオイル交換する際は、同時にオイルフィルタの交換も実施下さい。

詳しくは、車載の「取扱説明書」を参照下さい。